

## 地域医療支援センターだより



開設1周年新メンバースタート  
これからもよろしくお祈いします

### ごあいさつ

副センター長 さかもと 坂本 くにこ 邦子



日頃、地域医療支援センターにご協力いただきまして有難うございます。今年度、4月から看護部より配属になりました坂本です。今年度は、地域医療支援センターがこれまで積み上げた業績を基に、「地域医療支援病院」の承認を目標（紹介率40%、逆紹介率60%）に取り組むしたいと思います。これからも、地域の医療や福祉に携わる方々の活動とする拠点として当院を利用されるよう、連携を密に行える体制を目指しますのでよろしくお願い致します。

センター長 橋本正明  
副センター長 坂本邦子 ・ 課長 高名佑美

#### 地域医療連携係

坂本邦子  
岡下哲也  
佐波利花

#### 医療福祉相談係 (MSW)

高名祐美  
谷内満希子  
堤千晶  
宮越順子

#### 訪問看護係 (NS)

木下真由美  
脇本豊美  
多田久美子  
出村和恵

#### 居宅介護支援 事業所 (ケアマネジャー)

高名祐美  
谷内満希子  
堤千晶  
木下真由美  
脇本豊美  
多田久美子  
出村和恵

事務 大森のり子

# NewFace

## 訪問看護係師長

きのした まゆみ  
木下 真由美



## 地域医療連携係主事

さなみ りか  
佐波 利花



～訪問看護係D村より紹介をいたします～

木下師長は看護師歴は約20数年、年齢不詳（年齢非公開、年齢より若く見えます）、趣味は社交ダンス、話し上手で聞き上手、何でも相談にのってくれます。話していると語尾に「〇〇にか～」という特徴的な方言（富山県）が付くことがあります、あえて気にせず聞き流すことにしています。訪問看護係での師長の主な業務内容は、訪問看護はもちろんですが、コンシェルジュとして朝の混雑時など来院される患者様の総合案内役を行っています。みなさんもどこかで木下師長に出会う機会があれば、ぜひ、声をかけてみてくださいね。きっと素敵な笑顔がかえってきますよ。

はじめまして。地域医療連携係の佐波利花と申します。就職して、あっという間に1カ月が経ちました。まだ分からないことだらけですが、優しい先輩方に助けてもらいながら頑張っています。昨年度まで大学で看護を学んでいました。その学生時代の実習や研究を通して、患者様のケアは入院中だけではなく、退院後も含めた長い目で見た支援が必要であることを学びました。そのためには地域での医療機関同士のネットワークが不可欠です。このような理由から地域医療連携係の業務は、とても興味深いところです。医療連携を円滑に進め、患者様一人一人に最適な医療をご提供できるよう、これから精いっぱい頑張っていこうと思います。

## “つぶやき”のコーナー

～MSW編～

MSW業務の多くを占める退院支援において、最も多いのは介護に関する相談です。さて、患者さんが住み慣れた自宅で生活することを支えてくれるのは誰でしょうか？・・・そう、家族です。しかし、その家族が居ないというケースが多くなっているのです。例えば、平成24年1月中に院内からMSWに寄せられた相談件数は121件。うち、一人暮らし16件、二人暮らし35件であり、全体の42%を占めております。つまり、同居家族が居ないか、あるいは一人という世帯が圧倒的に多いのです。また、息子さんと二人暮らしという世帯も増えているようです。男性は女性に比べ、家事や介護に慣れていないのが現実です。以下の内容は親を一人で介護してこられた息子さんの言葉です。介護の現実を物語っています。「介護度が上がれば使える介護サービスが増えるように言われるが、実際、介護負担は減らない。サービスの費用が上がり、経済的負担が大きくなるだけ。親の介護をして、いずれ自分の介護は誰がしてくれるのか？と振り返った時、誰もいない。自分の人生を諦める事を最近では受け入れつつあるんです。」

今や介護施設や病院はどこも一杯。空いているのは高額な費用の施設のみ。在宅サービスの供給体制も不足している。こんな現実の中で私達はいつも患者さんや家族と悩んでいます。安心して生活できる場を求めながら。

地域医療支援センターのモットーは”つなぐ・つながる・つなげる“です  
院内外の皆様と手と手を取りあって繋がっていきたくと思います。  
皆様 仲良く仲良く！ よろしくお願ひします！